

## 物流における大学教育と大学教育における物流

第 42 回全国大会実行委員会

2024 年に開催された第 41 回全国大会では、「物流の「2024 年問題」とロジスティクスにおける人材育成」が統一論題のテーマとされた。社会の注目も物流に集まり、2024 年問題がテレビなどの報道でも頻繁に取り上げられた時期であった。2025 年に入ると報道が収束し、世間の関心も薄れて行った感は否めないが、これをもって 2024 年問題が克服されたと思えるのは早計であろう。ドライバーをはじめとする人材不足が、物流ネットワークの機能停止といった社会問題として露呈し、報道されること自体は少なかったが、これは現場における渾身の努力の結果であり、辛うじて「目立たずに済んだ」のではなかったか。

さらにいえば、人材不足はドライバーに限ったことではない。物流企業各社が、大卒の事務職・専門職の採用活動にもこれまで以上に力を入れていることは、学生の就職活動の状況からも見て取れる。そして大学業界でも、教員・研究者の人材不足が深刻化しつつあることは、ひしひしと感ずるところである。今回は、第 41 回全国大会の問題意識を引き継ぎ、焦点を大学教育に絞って議論を試みたい。

大学教育が、物流に関連する人材育成の中核に位置し、近年話題となっている「高度物流人材」の育成にとっても基礎であることは間違いない。一方で、「物流における大学教育」も「大学教育における物流」も、これまでは学会においても、十分な議論が尽くされたとは言いがたい。実際、物流に関連する科目のカリキュラム上の扱いは、大学によってまちまちであった。大学設置基準などの制約もさることながら、大学ごとの過去の経緯に依存する部分も多く、比較して論じることも難しかったと考えられる。

日本物流学会関西部会では 2024 年 5 月に、学会 40 周年記念シンポジウムを開催した。その際のテーマも大学教育に関連付けた。そこでは、関西地方の大学で物流・ロジスティクスを講じる教員が数名、所属大学における物流教育とカリキュラムを中心に説明し、物流企業の経営者をはじめとするコメンテーターから頂戴した意見に沿って、パネルディスカッションを行った。今回はそのいわば「延長戦」である。パネルディスカッションに先立って基調講演を開催し、さらに関西地方以外の大学からもパネリストをお迎えすることで、議論の視野と幅を広げることを試みる。また、大学などにおける物流教育と人材育成について、大会第 2 日の統一論題セッションでも数多くの報告と様々な議論が行われることを期待したい。

大学の役割、さらに社会との相互作用についても、真剣かつ少し切なく、そして洒脱に議論することで、物流と大学の未来を切り拓いていくことを目指したい。